

学校教育目標

「よく学び よく遊び やさしく かしこく たくましく」

教育基本法の理念に基づき、個人の尊重を重んじ、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間を育成する。

令和5年度学校経営方針（学力向上に関わる要点）

- 夢と希望をもち、自己実現を図る学校
 - ・生きる力につながる確かな学力を育む。
 - ・児童の安全意識の向上を目指した安全教育の充実を図る。
 - ・地域に開かれた教育活動を推進する。
 - ・学びの連続性を踏まえ、保幼小中連携教育の充実を図る。

指導の重点（各教科）

- 基礎的・基本的な知識及び技能の習得と、思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視し、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善に取り組む。
 - ・各単元で問題解決型の学習を展開し、児童が自己の課題をもつための学習指導の工夫や児童同士の考えを伝え合う活動の工夫を行う。
 - ・自己の振り返り場面を設定し、自らの学習状況の把握を行い、自らの変容に気付かせていく。
- 各教科等の指導計画にICT活用計画を取り入れ、児童が一人1台端末を活用した授業を推進していく。
 - ・学校での対面学習と家庭での個別学習を連動できる工夫に取り組む。

指導の重点（総合的な学習の時間）

- 自然や身の回りの地域社会との関わりの中で課題発見能力・課題解決能力を育成し、問題の解決や探究活動に主体的に取り組む態度を育てる。
 - ・ICTを活用しながら他者と協働的な学習を行う。
 - ・昨年度までの校内研究を生かし、外部・地域人材を活用しながら、授業実践に取り組む。



授業改善に向けた具体的方策

基礎的・基本的な学習内容の定着	発展的な学習	指導と評価の一体化
・言語活動を積極的に取り入れ、自分の思いや考えを言葉で適切に表現し、互いに伝え合う力を高める。 ・朝学習（東京ベーシックドリル・Qubena・書くことタイム）を全校で計画的に実施し、学力の基礎基本定着を図る。 ・任短教員を活用した算数の放課後学習教室（週4回）を実施する。	・習得、活用、探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「活用」「探究」場面を各単元に取り入れ、児童の主体的な学びの機会を作る。 ・児童同士や教職員・地域人材などとの意見交流の場を設定し、児童の対話的な学びの機会を作る。	・年度末に、各学年担任と各教科担当が、児童の学習状況を把握・評価する。その児童の実態から、授業改善プランの取組が効果的であったか、指導を振り返り、次年度の改善案を作成する。
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実	ユニバーサルデザイン、合理的配慮	家庭・地域との連携
・児童が自他の学習状況を把握できるようICTを活用する。 ・全学年で「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化の実現を図る研究授業を行い、効果的な手だてを校内全体で明らかにする。	・授業中の視覚的な刺激を減らす為に、教室前方の掲示物を減らし、各教室で統一したものにする。 ・視覚的に学習の見通しをもつため、単元計画や1時間の授業計画を教室前方に表示する。	・家庭学習の指針を明らかにし、全学年で発達の段階に応じた自主学習の課題に取り組む。 ・ことぶき大和会、大和町文化財を守る会、福島県新鶴小学校、すぎなみ環境ネットワークなどの学校と関わりのある地域人材との関係を大切にし、積極的に活用する。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

【小学校】

国語科における指導の重点

国語科の時間を中心に言語活動を充実させ、ICT を活用しながら自分の思いや考えを言葉で適切に表現し、互いに伝え合う力を高めるなど、児童の言語能力の向上を図る。全学年、朝の時間帯の毎週金曜日を「書くことタイム」と設定し、「書くこと」における基礎・基本の定着を図る。

現状分析

区学力調査の結果分析

- ・「話すこと・聞くこと」の達成率が6割から9割と各学年によってばらつきがあった。「書くこと」の達成率も、4割から8割と同様である。「書くこと」の力を伸ばすためには、自分の思いや考えを言葉で適切に表現できる方法を段階的に示していく必要がある。
- ・観点別では、「知識・技能」や「主体的な学習に取り組む態度」の達成率が8割から9割である。「思考力、判断力、表現力等」の達成率は5割から8割である。「思考力、判断力、表現力等」の育成をするために、自分の思いや考えを表現したものを交流する機会を増やす。

教科指導上の課題

- ・各学年で段階的に「書くこと」や「読み取り」のために身に付けさせたい力を明確にして指導していく必要がある。
- ・全学年を通して、自分の思いや考えを表現できる力を育てていくようにする。そのために、ペアやグループで話し合う場の設定を心がけていく。

授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	・自分の思いや考えを表現する際に、ICT を活用する。 ・自分で書いたものを読み直し、自分で直すことで、正しい表記を身に付けられるようにする。 ・ペアで自分の思いや考えを伝える活動を多く取り入れる。	・Qubena などの ICT を活用し、言葉の知識・技能の能力を伸ばす。 ・書こうとする文章の型や具体的なモデル文を提示することで段階を踏んだ書き方の指導を行う。 ・視写や聴写を指導に取り入れることで、正しい表記を身に付けさせるようにする。
3・4年生	・自分の思いや考えを表現する際に、ICT を活用する。 ・自分の思いや考えに加え、その理由も書くようにする。 ・ペアやグループで、自分の思いや考え、その理由を伝える活動を多く取り入れる。	・「初め・中・終わり」を意識して書くことができるように指導していく。 ・「書くことタイム」を活用し、定型文を使いこなしていけるようにする。 ・具体的な会話モデルを提示し、思いや考えを広げていけるようにする。
5・6年生	・単元の導入の段階で、自分の考えや思いをもつことができるような学習課題を設定できるようにする。 ・ICT を活用し、自分の考えや思いを相手に伝え、話し合う活動を積極的に取り入れる。 ・単元のまとめでは、話し合いにより深まった自分の考えや思いを表現できるようにする。	・目的に応じてどのような言葉を使うのか、どのような話し方をすべきかを考えさせるようにする。 ・文章全体の構成や書き表し方に着目できるようなモデル文を提示し、自分で文や文章を整えることができるようにする。 ・引用、図表やグラフなど自分の考えを伝えるための工夫を提示していく。

(2) 社会科

【小学校】

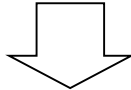
社会科における指導の重点

基礎的・基本的な知識及び技能の習得と、思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視し、社会的事象を多面的・多角的に捉えられるように、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善に取り組む。そのために、各単元での問題解決型の学習を展開し、調査活動ではICT等の活用を多く取り入れる。また、児童自身が問いをもつことができるための学習導入の工夫を行ったり、児童同士の考えを伝え合う活動を工夫したりする。

現状分析

教科指導上の課題

- ・ 児童が社会的事象から学習問題を見出し、その解決への見通しをもって取り組むことができるような指導が必要である。
- ・ 対話的な学びの場面を設定をすることで、個々の児童が多様な視点を身に付け、社会的事象の特色や意味などを多角的に考えることができるようにする必要がある。
- ・ 社会的事象等について調べ、まとめる技能を身に付けるために、問題解決に向けて整理してまとめる方法を指導する必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
3・4年生	・ 問題解決の過程を示したプレートを使い、問題解決型の学習の流れを理解する。 ・ 一律に同じ視点や学習方法を示すのではなく、児童に自分の興味・関心や課題に応じたものを選択させる場を設定する。 ・ 毎単元に自分との関わりを表現する活動を取り入れる。	・ ICTを活用し、視覚的な教材を多く用いた授業で、知識・理解を伸長する。また、Qubena等を活用し、反復学習を行うことで、基礎的基本的な内容の定着が図られるようにする。
5・6年生	・ 課題に対して自分が選択した学びに見通しをもち、自分の意志の下で学習を進めることができるようにする。 ・ 学習問題を追究する中で、ICTを効果的に活用し、複数の資料から取り出した情報を比較・関連付けて互いに深め合うようにする。 ・ 互いに学んだことを比較、分類、統合したり、関連付けたりして共有する。	・ ICTを活用し、視覚的な教材を積極的に用いることで、学習内容に興味をもたせ、知識・理解を伸長する。また、Qubena等を活用し、反復学習を行うことで、基礎的基本的な学力の定着を図る。

(3) 算数科

【小学校】

算数科における指導の重点

- ・ 学習の系統性を意識しながら継続して東京ベーシックドリルや Qubena など ICT を活用した問題に取り組んだり、既習事項のふり返りを含む授業展開を行ったりすることで、単元や領域の知識や技能を確実なものとしていく。
- ・ 目的に応じて式・図・表・グラフ等を活用し、根拠を基に道筋をたてて考え、説明する活動を通して、主体的に考え解決する力を養う。
- ・ 児童の日常生活と関わりのある事象を取り上げ、具体物を用いた活動を充実させることで他教科等の学習や日常生活での問題解決に活用していこうとする力を育む。

現状分析

区学力調査の結果分析

- ・ 本校の「データの活用」に関する達成率が5割から8割とばらつきがあった。日頃の授業から目的に応じて図や表、グラフを使って解き方を考え、ノートにまとめる指導を行っていく。
- ・ 観点の項目では主体的に学習に取り組む態度の達成率が5割から9割と大きなばらつきがあった。基礎・基本（公式、計算等）を確実に定着させ、式・図・表・グラフ等を活用する能力を付けることで、自信をもって自分の考えを書けるようにする。また、友達と説明し合う活動の機会を増やすことで主体的に学習に取り組んでいく力を身に付ける必要がある。

教科指導上の課題

- ・ 児童の日常生活と関わりのある事象を取り上げ、具体物を用いた活動を充実させることで、主体的に問題解決に取り組めるよう指導をする必要がある。
- ・ 主体的に問題解決する際に、式や図、表、グラフを用いて考えていけるように系統立てて指導していく。

授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	・ 自分なりの解き方を考え、ノートに書いていく機会を増やす。また自分の考えを児童に伝える時間を確保する。	・ 基礎・基本の定着を図るために Qubena などの ICT 機器を使い、苦手なところを学習したり復習したりしていくことができるようにする。 ・ 基礎的、基本的な知識を定着させるために、東京ベーシックドリルに取り組む時間を週1回、朝学習の時間に確保する。
3・4年生	・ 基礎・基本を定着させることで、文章問題に取り組む力を伸ばす。 ・ 自分なりの考えを式・図・表等を用いて考えていく機会を増やす。また、自分の考えを児童と伝え合うことで様々な解き方を知る機会を設ける。	・ 基礎・基本の定着を図るために Qubena などの ICT 機器を使い、苦手なところを重点的に学習したり復習したりしていくことができるようにする。 ・ 基礎的、基本的な知識を定着させるために、東京ベーシックドリルに取り組む時間を週1回、朝学習の時間に確保する。
5・6年生	・ 基礎・基本を定着させることで、応用問題や文章問題に粘り強く取り組む力を伸ばす。 ・ 自分なりの考えを式・図・表などを用いて考え、児童に説明する機会を増やす。また自分の考えを友達と伝え合い思い浮かばなかった解き方を知り、理解する時間を確保する。	・ 基礎・基本の定着を図るために Qubena などの ICT 機器を使い、苦手なところを重点的に学習したり復習したりしていくことができるようにする。 ・ 基礎的、基本的な知識を定着させるために、東京ベーシックドリルに取り組む時間を週1回、朝学習の時間に確保する。

(4) 理科

【小学校】

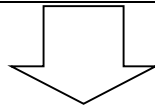
理科における指導の重点

基礎的・基本的な知識及び技能の習得と、思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視し、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善に取り組む。そのために、各単元での問題解決型の学習を展開し、児童自身が問いをもてるための学習導入の工夫を行ったり、児童同士の考えを伝え合う活動を工夫したりする。

現状分析

教科指導上の課題

- ・児童が差異点や共通点を基に、問題を見いだすために、事象提示の工夫が必要である。
- ・児童が既習の内容や生活経験などを基に、根拠のある予想や仮説をたてられるような指導が必要である。
- ・児童が予想や仮説を基に、解決の方法を発想できるような指導が必要である。
- ・自分がすでにもっている考えを検討し、より科学的なものに変容できるような指導が必要である。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
3・4年生	・ 問題解決の過程を示したプレートを使い、問題解決型の学習の流れを理解する。 ・ 毎単元ごとに自然の事物・現象に対して、児童一人ひとりが差異点・共通点に注目して自分の考えを表現する。 ・ 問題に対して、自らの生活体験や既習事項を想起し、それを根拠にして、予想・仮説をたてる。 ・ ICTを活用し、自分の考えを相手に伝え、話し合う活動を積極的に取り入れる。	・ 単元終了後、基礎的・基本的な内容の問題に取り組む時間を確保する。 ・ QubenaなどのICTを使い、自分の苦手なところを重点的に学習させる。
5・6年生	・ 自然の事物・現象に影響を与える要因に注目して一人で実験計画を立てた後、グループや全体で検討する活動を取り入れる。 ・ 「考察」の場面で、自他の考えを伝える中で、自分がすでにもっている考えが科学的かどうか検討する。	・ 単元終了後、基礎的・基本的な内容の理解の定着に取り組む時間を確保する。 ・ QubenaなどのICTを使い、自分の苦手なところを重点的に学習し、理解の定着を図ることができるようにする。

(5) 生活科

【小学校】

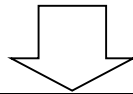
生活科における指導の重点

校内研究として目指す児童像「身近な人々、社会及び自然を自分との関りで捉え、自分自身や自分の生活について考えることができる子」を掲げ、ICT を活用しながら他者と協働的な学習を行う。また、児童自身が問いをもち、自分の思いや願いを生かすことができるような学習の導入や考えを伝え合う活動を工夫する。

現状分析

教科指導上の課題

- ・活動のねらいを分かりやすく伝え、視点を明確にした指導をする必要がある。
- ・積極的に体験活動を取り入れ、児童の願いや思いを基に指導をする必要がある。
- ・様々な気づきを工夫して表現できるような学習活動を多く設定する。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	・ 授業毎に何に気付いたか、気付いたことを使ってどう考えたかなどの視点を与える。 ・ 見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどの具体的な体験活動を取り入れる。 ・ 言葉、絵、動作、劇化、動画・写真などから自分に合った表現方法を選び、振り返りができるようにする。	・ 様々な視点をもたせ気づきを増やすために具体的な活動や体験を充実させる。 ・ 様々な表現方法を身に付けさせるために他教科とのつながりを意識した授業を展開する。

(6) 音楽科

【小学校】

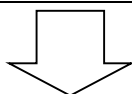
音楽科における指導の重点

常時活動において、基礎的・基本的な知識及び技能の習得につながるような活動を取り入れる。また、協働的な学習を通して互いに見合いながら活動したり、ICTを活用して自分の演奏を振り返る場を設定したりするなど、自らの変容に気付かせるようにしていく。他に、自分の生活に関わることや、他教科と関連付けたり、体験活動を取り入れたりして、主体的・対話的で深い学びにつなげる。

現状分析

教科指導上の課題

曲の雰囲気から感じ取ったことをもとに、音楽の構造との関わりについて理解させる。それを踏まえて、児童自身が思いや意図をもって演奏することにつなげられるような指導をする必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	・ 曲に合わせて、体を動かしながら聴いたり歌ったりすることで、思いを表現できるよう指導をする。 ・ 練習動画を作成して、個々の課題に応じて取り組めるようにする。 ・ 曲について、気付いたことや感じたことを伝え合ったり、演奏を聴き合ったりして協働的な学びにつなげられるようにする。	・ 拍を意識させるために、音楽遊びなど常時活動の内容を工夫する。 ・ 器楽の基礎的な技能を定着させるための活動を取り入れる。 ・ 音楽を楽しみながら、活動できるようにする。
3・4年生	・ 曲想の違いや、重なりあった音の響きを味わいながら、思いをもって聴いたり、演奏したりできるようにする。 ・ 練習動画を作成して、個々の課題に応じて取り組めるようにする。 ・ 曲について、気付いたことや感じたことを伝え合ったり、演奏を聴き合ったりする協働的な学びを通して、学びを深める。	・ 拍を感じながら、音や旋律をつなげたり重ねたりできるような活動を取り入れる。 ・ 身近なことや、他の教科と関連付けて、興味・関心をもたせられるようにする。
5・6年生	・ 曲想や音楽の構成、縦と横の関わりなどを理解し、それを生かして、歌ったり演奏したりして表現できるようにする。 ・ 録音・録画機能を活用し、自分自身で振り返りを行い、自ら課題やよさを見付け、活動に生かすことができるようにする。	・ 身近なことや、他の教科と関連付けて、興味・関心をもたせられるようにする。 ・ 歌唱や器楽の表現について、知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって表現できるようにする。

(7) 図画工作科

【小学校】

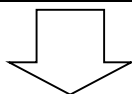
図画工作科における指導の重点

- ・基礎的・基本的な知識及び技能の習得と、思考力・判断力・表現力等の育成を重点として、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- ・造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図る。

現状分析

教科指導上の課題

- ・学習の目的を理解し、意欲的に学習を積み重ね主体的に学ぶことができるように指導する必要がある。
- ・多様な表現を知り、自分の考え方を形づくり、広げ、深めるように対話的な学びを指導する必要がある。
- ・自分の表したいことを見付け、自らの課題として探究し、意欲的に取り組むように指導する必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	・ 感じたり、考えたりしたことを、自分のイメージに合わせて色や形に表すことを楽しみながら活動できるようにする。 ・ お互いに作品や表現技法を紹介することで、よさや美しさを味わい、多様な表現の可能性を知ることができるようにする。	・ 身近な材料や用具に親しみ、さまざまに工夫して創作できるように指導する。 ・ はさみや糊の使い方を理解し、水彩絵の具を適切に扱えるように指導する。 ・ 作業の中盤と完成時に、児童の表現を紹介したり、お互いに作品を見合う時間を設けたりする。
3・4年生	・ 新しい材料や表現技法に興味・関心をもち、自分の造形活動に生かせるようにする。 ・ 題材の目的を理解して、豊かに発想し、丁寧に創作活動をするようにする。 ・ 友達の表現活動や作品から表現の多様性を理解し、自らの作品のよさや美しさを認識するようになる。	・ 身近な材料や用具の使い方を確認すると共に、スパッタリング等のモダンテクニックを新たな技法として学ばせることで、表現の可能性を広げさせる。 ・ さまざまな作例を提示し、児童が豊かなイメージをもって活動できるように指導する。 ・ 発想を広げる手立てとして、ICT を使用し、画面の構成を考えさせたり、鑑賞の機会を設定したりする。
5・6年生	・ 豊かに発想し、自分の表したいイメージに合わせて、材料や表現方法を選択できるようにする。 ・ 構想から完成まで見通しをもって製作工程を計画できるようにする。 ・ ICT 機器を活用して芸術作品を学ぶ機会を広げ、自らの創作活動に生かすようにする。	・ 創作活動に応じた材料を豊富に準備し、表現方法を伝えることで、児童が自らの創作のための課題を設定し、実現するように意欲をもたせる。 ・ 製作の種類や共通する作業ごとにグループで活動させることで、お互いの知識・技能を生かせるようにする。 ・ 作家作品の鑑賞活動等に ICT 機器を活用する。

(8) 家庭科

【小学校】

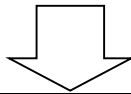
家庭科における指導の重点

- ・日常生活との関連を図り、実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習を充実する。
- ・安全指導・安全管理の徹底と、学習環境の整備を行う。

現状分析

教科指導上の課題

家庭科に興味・関心があり、意欲的に学習に取り組むことができている。また、学習したことを家庭で実践しようとする児童も増えてきた。しかし、製作活動では時間がかかることがある。技能の個人差は生活経験での差が大きく影響しているため、既習の知識や技能を活用した応用的な指導をする必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
5・6年生	・調理や製作等の手順の根拠について具体的に考えられるようにICTを用いて、画像や動画を示すことで、ペアやグループでの学習活動の効果を高められるようにする。 ・学習したことを家庭生活に生かすために、長期休業中の課題を選定したり、取り組んだ課題を学級全体で共有したりすることで、家庭との連携も図りながら取り組むようにする。	・児童の生活に即した具体的な内容で学習を展開し、一人ひとりが生活をよりよくする視点で学習が進められるようにする。 ・児童が主体的に学習を進められるように様々な資料や実物を用意し、実際に見たり触ったりできるようにする。

(9) 体育科

【小学校】

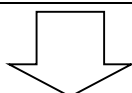
体育科における指導の重点

中野スタンダードを基にした到達目標を設定した体力向上プログラムを作成し、体育の指導の充実を図るとともに、体力向上月間に合わせ計画的にダンス週間・持久走週間、長縄週間などに取り組み、運動の保持増進及び体力向上を図る。また、アスリートやスポーツ指導者との交流を図り、目標をもって運動に取り組む意欲を高める。

現状分析

教科指導上の課題

- ・ 児童の体力向上のために、運動量を確保する必要がある。
- ・ 自己の課題を見付けさせ、解決のための方法や活動について考えたり、友達と考えを伝え合ったりする時間を確保する必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	・ 自分がやってみたい遊びを選択できるようにする。 ・ 自己に適した運動遊びを選択できるようにする。 ・ 自分が見付けた遊びを友達と伝え合う時間を確保する。	・ 運動遊びをする際に順番やきまりを守れるよう、言葉掛けをする。 ・ 30分程度の運動量を確保する。 ・ 自分の取組を振り返り、次時の活動に生かす。
3・4年生	・ 自分の動きを視覚的に振り返るためにICTを活用し、自己の課題を見付けられるようにする。 ・ 自己の課題に応じた場や活動を選択できるようにする。 ・ ペアやグループ活動を取り入れ、互いに動きを見合い動きの工夫や改善点を伝え合う。	・ 運動を行う際に順番やきまりを守れるよう、言葉掛けをする。 ・ 30分程度の運動量を確保する。 ・ 学習カードを活用し、自分の取組を振り返り、次時の活動に生かす。
5・6年生	・ 自分の動きを視覚的に振り返るためにICTを活用し、自己の課題を見付けられるようにする。 ・ 自己の課題を見付け、解決の仕方を考えたり課題に応じた場や活動を選んだりできるようにする。 ・ ペアやグループ活動を取り入れ、互いに動きを見合い動きの工夫や改善点を伝え合うことで、自ら課題を解決できるようにする。	・ 運動を行う際に、順番や約束を自分たちで工夫できるよう、言葉掛けをする。 ・ 30分程度の運動量を確保する。 ・ 学習カードを活用し、自分の取組を振り返り、次時の活動に生かし、運動への意欲を高める。

【小学校】

外国語活動・外国語科における指導の重点

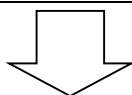
低学年から中学年にかけて外国語に親しむ機会をつくり、ALT を活用しながら、外国語の音声の基本的な表現に親しみ、国際理解のために必要なコミュニケーション力の素地を養う。また、高学年では書くことや読むことの基礎を養い、自分が伝えたいことを表現できるようにする。

外国語活動と学校図書館の関係を図り、簡単な外国語の絵本の読み聞かせやブックトークなど多様な活動を通じて言語や外国の文化について体験的な理解を深める。

現状分析

教科指導上の課題

- ・ チャンツや歌、ゲームを取り入れ、低学年から外国語に親しむことができるよう指導をする必要がある。
- ・ 外国語の音声の基本的な表現に何度も親しませ、自信をもって、コミュニケーションを図ろうとする素地を養う必要がある。
- ・ 書くことや読むことの基礎を養い、自分が伝えたいことを表現できるようにする必要がある。
- ・ ALT の話や外国語絵本から外国語の背景にある文化に対する理解を深める必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
外国語活動	・ ALT や ICT を活用して、様々な単語の音声を練習する学習活動を十分に確保する。 ・ 基本的な表現を用いた、ゲームやコミュニケーション活動を多く取り入れる。	・ ゲームやチャンツ、歌などを取り入れ、児童が意欲的に学び続けられるように毎回の指導計画を明確に示す。 ・ 絵カードを継続して活用することで、基本的な表現に慣れ親しみ、自信をもって自分が伝えたいことを表現できるようにする。 ・ 外国語絵本の読み聞かせを行い、外国の文化に触れ合えるようにする。
外国語科	・ ALT や ICT を活用して、様々な単語の音声を練習する学習活動を十分に確保する。 ・ スピーチや相手とのコミュニケーション活動を多く取り入れ、自分の考えや気持ちなど伝えたい内容を整理できるようにする。 ・ 自信をもって発話することができるよう簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。	・ 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いを認識できるよう、違いを提示する。 ・ 四線上の書く位置に気を付けながら、語順を意識して自分が伝えたいことを表現できるよう、例文の準備をしたり、なぞり書きの練習を行ったりする。

【小学校】

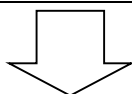
道徳科における指導の重点

「B 人との関わりに関すること」の中から「友情、信頼」「相互理解、寛容」に指導の重点をおいた、望ましい人間関係の構築を図る。

現状分析

教科指導上の課題

道徳的価値について自分たちの生活に照らし合わせて考える力を伸ばし、実生活の行動に生かせるようにするために実践力を育てていく必要がある。



授業改善プラン

具体的な授業改善案

- ① 児童理解に努めるために、児童の意識調査、日常の様子を観察、日記や作文などから道徳性の実態を把握する。また、その際に一人1台端末を活用しアンケート調査や結果表示、画像の撮影などを工夫して行う。
- ② 児童が資料を理解し、登場人物デジタル教材の場面絵を活用した資料の提示やプレゼンソフトを活用した教材提示を工夫する。
- ③ 考える時間や書く時間を十分に確保することで、自分の生活を振り返り、道徳的価値に迫ることができるようにする。
- ④ 様々な意見が明確になるような発問構成をして、児童の意見を分類分けしたり、色づけをしたりするなど板書を工夫する。
- ⑤ ねらいとする道徳的価値に照らし合わせ、自己の見方や考え方、過去・現在・未来の自己の変容に目を向けさせ、道徳的实践力に結びつけられるようにする。